

主日の福音 2025/6/1(No.1358)



主の昇天 (ルカ 24:46-53)

主は天に上げられ、高い所からの力で覆う

皆さんは特別な人と握手したことがあるでしょうか。国を代表する方と握手の経験はあるでしょうか。中田神父にそのような経験があれば話したいですが、残念ながら特別な握手はしたことがありません。

それでもあえて、特別な体験を示してほしいと言われたら、司祭叙階式の体験を挙げたいです。大司教様は聖香油を私の手のひらに塗りながらこう唱えました。「御父は聖霊の力によって、主イエス・キリストに油を注がれました。信じる人々を聖なる者とし、感謝の祭儀をささげるために選ばれたあなたを、キリストが守ってくださいますように。」

この瞬間、私はキリストと結び合わされたと感じました。「イエス様と握手をした」と言える体験でした。「イエス・キリストと握手をしたこの手は、ほかのことには使えない。」そういう感覚がありました。

実際には、いろいろなことに手を使います。教会の働きのほかにも、魚釣りのためにも手を使いますし、ソフトボールやテニスにもこの手を使います。ただ、最優先に使うべきは、イエス・キリストのためなのだと、聖香油を塗られている間は考えていたのでした。

本日、主の昇天の祭日です。次の箇所が強く目を惹きました。「わたしは、父が約束されたものをあなたがたに送る。高い所からの力に覆われるまでは、都にとどまっていなさい。」(24・49)「高い所からの力に覆われる」とは、天の高みと、私たちの地上とが、結び合わされるということではないか。中田神父の今週の注目点です。

司祭叙階の時に、聖香油で両手を覆っていただきました。その時イエス・キリストと結び合わされたと感じました。イエスが天に昇って、地上の民が高い所からの力に覆われたとき、天と地は固く結ばれたのです。まさに「覆われた」、全世界の民が神と固く結ばれたのです。

この学びをもってミサを続けていくと、主の昇天は私たちと無関係ではなくなります。なぜなら私たちもミサの中で、復活し、天に昇られたイエスと固く結ばれるからです。それは、みことばと聖体拝領です。

すると、こんなことも言えるのではないのでしょうか。「日曜日のミサでイエス・キリストに固く結ばれた私は、最優先でイエス・キリストのために自分自身を使うべきではないか。」ほかのことものためにも使うべきことはありますが、みことばと聖体拝領でイエスと固く結ばれたこの私を、主日と守るべき祝日には、イエスのために使ってほしいのです。

ではどのようにイエスのために使えば良いのでしょうか。イエスの祝福を受けた弟子たちの行動がそれを教えてくれます。「彼らはイエスを伏し拝んだ後、大喜びでエルサレムに帰り、絶えず神殿の境内にいて、神をほめたたえていた。」(24・52-53)

中田神父はこれを、「大喜びで自分本来の生活に戻り、神をほめたたえていた」と理解しました。みことばと聖体拝領(これが復活し、天に昇られたイエス・キリストです)に覆われた私たちは、大喜びで自分本来の生活に戻り、生活を証しの機会にします。

今日私が、みことばと聖体に結び合わされたことを忘れないようにしましょう。忘れずに一日を過ごすなら、天に上げられ、高い所からの力で覆ってくださるイエスが、私たちの使命を叶えてくださいます。

聖霊降臨の主日(ヨハネ 14:15-16,23b-26)

福音のことばによって、わたしたちが罪から清められますように。